

早川健治

1989年4月2日埼玉県生、26歳。自由の森学園高等学校、ブリティッシュコロンビア大学哲学科卒業。訳書にフロスティ・シガーヨンスン『通貨改革—アイスランドのためのより優れた通貨制度』（2016年）、ロビン・G・コリングウッド『精神の鏡、知識の地図』、同『哲学の方法について』（2014年）。また、学術誌『ARENA』、将棋雑誌『将棋世界』等に寄稿。現在、ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン哲学科修士過程在籍中。修士論文は『亀裂がはしる以前—ヘーゲルの論理学関連作品の最初期の英訳について』。

外国語で書かれた哲学作品の受容に翻訳が与える影響に興味がある。特に、哲学翻訳において多用される造語が、哲学作品と一般読者との間に溝を作ってしまうかという問題意識を持っている。また、安易な文化相対主義や言語相対主義、安易な「日本語の哲学」論に対して批判的である。